

# 環境保全型農業は誰のため

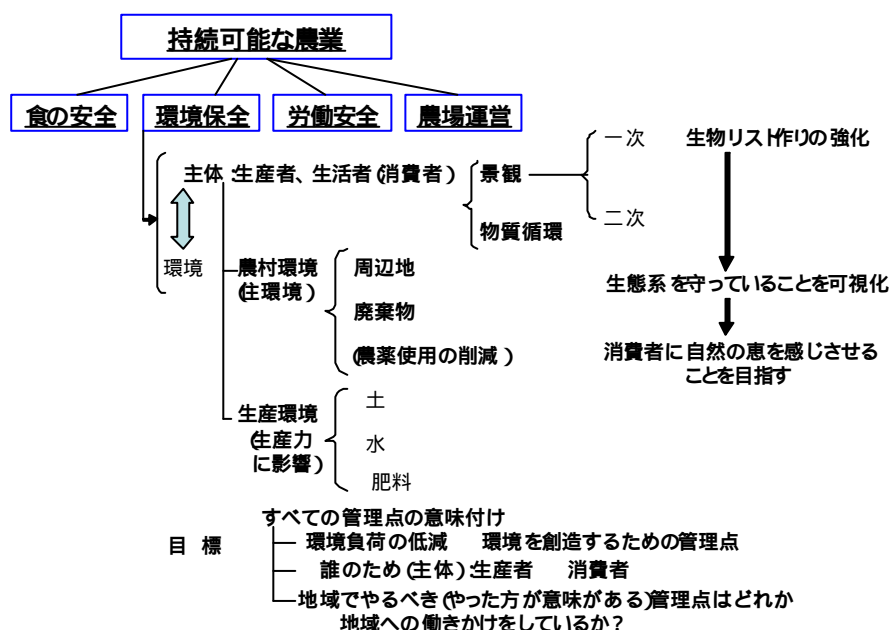
## ～ J G A P 環境項目の改善の討論会

今月17日、J G A P 協会は「環境保全型農業のプロによる J G A P 改善のための討論会」を開催した。今回の討論会は、環境保全型農業の分野で活躍されている方を招き、J G A P 基準の環境保全の部分について討論が行われた。座長は日本 G A P 協会技術委員長の岩元明久氏、農と自然の研究所 宇根豊氏、元農水省環境技術研究所長 西尾道德氏、全国エコファーマーネットワーク会長 佐々木陽悦氏、J G A P 協会技術委員会顧問 堅田義秋氏、全国農業協同組合中央会 丸澤充芳氏、レインフォレスト・アライアンス 堀内千恵子氏、パルシステム生協連合会 大我晶子氏等オブザーバーも参加し(1)環境保全型農業とは何か(2)環境に優しい農業とは何か(3)持続的な農業とは何か(4)J G A P 環境項目(水の保全、土壌の保全、肥料の管理、周辺地への配慮、廃棄物の適切な処理と削減、エネルギーの節約と地球温暖化防止、環境保全への意識と生物多様性への配慮)の検討(5)現在の J G A P に無い環境保全型農業の論点について意見交換・討議がなされた。

J G A P の目的は持続可能な農業である。持続可能な農業の為に環境保全は必須である。ヨーロッパでは、農業は環境に負荷をかけるという認識がある。自然(Nature)に対峙しているから、環境を破壊しているという認識である。その為、環境保全に努力する農業に対しては国が支援する環境支払いがある。日本は自然と共生という概念があり、自然を対象化する習慣がなかった。また水田稲作中心の日本の農業は環境を保全する生物多様性豊かな機能があると考えられていた。

西尾氏は1982年までと以後では環境に対する認識に大きな変化が起きたという。1982年までは食料増産と農業所得向上が目標で、農業技術・生産性向上のために、化学農薬、化学肥料の過度な使用により環境への負荷が認識されるようになった。そして、農業生産にともなう環境汚染、残留農薬などによる食品の安全性への懸念が顕在化した。国民は農業に起因した環境汚染(肥料養分による水質汚染、大気への温室効果ガスの排出、残留農薬による食品・生態系汚染)と、農業環境変化による農業の持つ多面的機能の変化(土壌浸食の増加、野生生物生息地の劣化(獣害の増加)生物多様性の低下)などに関心が高くなった。1982年農政審議会報告書『80年代の農政の基本方向の推進について』で、『緑資源の持つ機能(後に多面的機能と改称)』の評価を重視し、1983年農業環境技術研究所が設立された。農業技術が、自然環境に与える影響を把握する必要がある。

### 「JGAP環境項目のコンセプト図」



(次ページへ続く)

### 持続可能 (sustainable) な農業と環境保全型農業とは

農業は科学と自然のバランスの中で、作る側(生産者)も消費する側も農業の多面的機能を理解し、環境問題に取り組みなければならない。今回の討論の中で宇根氏は、環境に優しいとは何か、環境保全が出来ているとは何か?を問いかけた。『環境把握技術』が単なるモニタリング技術ではなく農業技術が自然環境に影響を与えているかどうか、その影響が自然環境と親和的なのか、対立的なのかを判断する尺度、指標、価値観が必要であるという。農業が自然に優しいか、優しくないかその行為を評価する(規制する)政策がなければならないと。正しくそれはGAP、ヨーロッパの国が薦めるGAPであろう。

日本では、1992年「新しい食料・農業・農村政策の方向」で環境保全型農業の取り組みが始まった。すなわち、「農業の有する物質循環機能などを活かし、生産性の向上を図りつつ環境への負荷の軽減に配慮した持続的な農業『環境保全型農業』の確立を我が国農業全体として目指さなければならない。」と。一般的には環境にやさしい農業であり、まだ農業の多面的機能は入っていない。また環境保全型農業は、日本独自の用語で世界的には「持続可能 (sustainable) な農業」である。1992年の環境と開発に関する国連総会のスローガン、持続可能な開発 (sustainable development) の農業版である。1994年農水省の呼びかけで作られた、全国環境保全型農業推進会議で、環境保全型農業の定義として「多面的機能の発揮」を追加した。

#### 環境保全型農業は環境負荷低減と環境を豊かにする取り組み

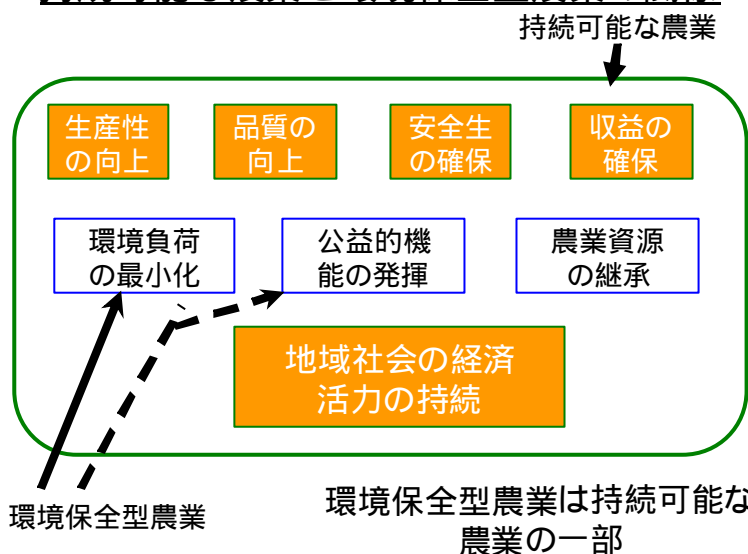
環境保全型農業には二つの側面がある。環境負荷を低減する取り組みと、環境を豊かにする取り組みである。JGAPは、農業生産工程管理である。宇根氏は、JGAPの環境項目は結果ではなく過程・農業者の姿勢・生き方を評価し、結果は引き受けるという伝統的な日本の農業観に沿う内容がいいと提言する。また、全国エコファーマーネットワーク化を進める佐々木氏は、生産者の健康を重視した農業等減らせる物を出来るだけ減らした、負荷低減を積極的に進める。有機農業を中心にした、地域の有機資源を活用した土作りで生産力を

上げ、豊かな土壌を目指し農業生産のあり方を環境負荷低減へと変える運動を進めている。世界的課題である地球温暖化に向かい合う農業、食の安全と環境破壊の課題に自発的に取り組み、購買活動を通じ消費者へ「取り組みの見える化」を深めている。いま生産者の姿勢が問われており、消費者(国民)の支持なくして持続的農業は考えられないという。

JGAP農場の取り組みを消費者に如何に伝え、理解してもらえるかは容易ではない。しかし、環境保全の取り組みが正しく評価される仕組みとしてJGAPは期待できる。農産物価格低迷のなか、農業経営の持続が厳しく危機的な日本農業を、消費者・国民に伝え支持を得る事なくして持続可能な農業は考えられない。消費者の安全かつ良質な農産物に対する需要が増大している中、環境保全型農業やJGAPの取り組みがこうした需要に対応した農産物に資するものであることを明確化していくことが必要である。

今回の討論で、追加した方が良い環境項目の提案、地域で取り組む項目など多くの提案があった。ヨーロッパとは自然環境、自然観が違う日本の農業環境。100年前の自然を取り戻すのは不可能に近いが、日本独自の風景を取り戻す、そして消費者に支持されるJGAPであることを期待したい。

#### 持続可能な農業と環境保全型農業の関係



環境保全型農業

環境保全型農業は持続可能な農業の一部

# レインフォレスト・アライアンスについて

このシールを見たことがありますか？国際的な環境保護団体として、1987年にニューヨークで設立された、非営利環境保護団体（NPO）の認証マークです。熱帯雨林で生産される農産物（コーヒー・カカオ・バナナ等）を対象に、それらを生産する過程において遵守すべき厳しい基準が設けられており、この基準を満たしていることが証明された場合に、レインフォレスト・アライアンス認証が与えられます。世界中の農業、林業、観光業の専門家たちと連携し、水、土壌、野生生物の生息地、森林の生態系を保護する方法を開発し、レインフォレスト・アライアンスの基準を満たす農園や森林には、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどの企業や消費者に広く認知されつつある認証マークです。



レインフォレスト・アライアンスは20年以上に亘って、生物多様性及び労働者と地域共同体の権利と社会的境遇を守るために活動しています。現在までに、70カ国以上の国々で、64万haの森林と、69万haの小規模家族経営農園、組合、プランテーションを認証しています。土地の利用法、商取引の方法、消費者の行動を変えることにより、生物の多様性を維持し、人々の持続可能な生活を確保することを使命としています。

基準に達するとマークを使用する資格が与えられます。国際的環境保護/地域開発団体が連立したグループ、サステナブル・アグリカルチャー・ネットワーク(SAN)によって定められた、100項目に及ぶ社会的、環境的、経済的基準に基づき、農園の認証を行っています。林業に関する認証は、生物多様性を保全し、地域共同体を支援する形で森林が管理されているかを監視し、持続可能な方法を改善し続けようと努めている、森林管理協議会(FSC)の基準を採用しています。

認証された農園からの生産物、あるいは紙・木材製品を購入、利用する企業は、「レインフォレスト・アライアンス認証」あるいは「FSC」のマークを商品ラベルなどに使用することができます。消費者は、これらの認証マークがついた商品の購入を通じ、環境を保護し、持続可能な開発を促進することができます。この認証マークがついている製品を消費者が選ぶことで、安全な農作物を作る生産農家の継続的な活動を支援することにつながります。それは、間接的に熱帯雨林の保護に参加することになるとも言えます。

林業や農業といった活動に加え、レインフォレスト・アライアンスは持続可能な観光業についても、国際的な活動を率先して行っています。具体的には、中小規模の観光業者や地域共同体で運営しているロッジやホテルの支援をしています。また、各地域の資源を保護し、自然とその地域に住む人々を尊重する旅行者を、より多くひきつけるための設備や技術を提供しています。

## フェアウッド・パートナーズ～企業と他団体との先進的な連携

フェアウッドとは、伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木材製品のことで、例えば、修理・再生した木製品[Reduce, Reuse] 古材や廃材を再使用した木製品[リサイクル] 最低限、違法伐採でない木材(違法伐採、生態系破壊、地域社会への悪影響、絶滅危惧種の恐れ)[合法材] 近くの森林から生産された木材[国産材・顔の見える木材] 地域住民が自ら適切に森林管理している木材[コミュニティ材、フェアトレード] 生態系や社会に配慮して持続可能に管理された森林からの木材[森林認証材] このような木材・木材製品 = フェアウッドをあなたの会社が選ぶ事で、生物多様性に配慮し、温暖化の影響を小さくすることができます。グリーン調達の流れを先取りできます。消費者が木材製品を選ぶときの参考になります。生物多様性に取り組む企業や活動が増えています。

新事務所に移転致しました。移転準備に伴い、営業時間短縮等にご協力下さいまして有難うございました。お近くにお越しの折は、是非お立ち寄り下さい。お待ち申し上げます。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

【2011年2月21日に移転致しました】東京都千代田区麹町一丁目10番地 麹町広洋ビル1階  
電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>